

学 び と 信 仰

杉本 光俊

私はボーイスカウトに入って多くの事を学びました。人間関係の中で人の心を思い、隊集会、班集会、指導者訓練等にて技術的な事や多くの知識を得ました。

野外活動では、体力を養い、健康安全について注意する事を学びました。学んだ事を基に実践して、数多くの体験をし、いろんな事を経験させて頂いたことで今の私があるんだとなぁと思っています。

これらの知識や経験した事を、今度は人の役に立てることが「ボーイスカウトの幸せ」であると B-P が言われたとおりです。

私の幸せは、人を幸福にする事であると、毎年、自坊光圓寺では年末に除夜の鐘を突いています。門信徒の皆様やスカウト達、保護者の方々が沢山来て下さいます。この中に OB となって、妻や子供を連れて来てくれるスカウト達があります。彼らは「ここは僕らのふるさとや」と言って同窓会の様に集まります。この言葉を聞いた時、本当にボーイスカウト活動を続けていて良かったと嬉しく思うのです。

スカウト運動の中に進歩制度があり、その中に最高の富士章があります。取得したスカウトに私はいつも言います。「富士章を取得する努力を認めた章であって、何でも出来る知っているスーパーマンになったのではないよ。」と。同じ事が仏教章を修得した人にも言える事です。「仏教に出会った入門段階だよ」と、これから仏教の勉強が始まるのです。

ボーイスカウト教育理念の中に B-P は「明確な信仰を持ちなさい」と言われたのは、信仰心の上に私達人間の生活があることを示して下さったのでしょ。

子育てにおいても「しつけ」、「教育」、「信仰を伝える」の三つがありますが、信仰を伝えるということが抜けている今日です。

スカウト活動の中で、信仰についてもっと取り組み、宗教儀礼、スカウトオンを実践して頂ければと願っています。

弥 栄

北信越大会（昭和 33 年 8 月）が新潟と佐渡で開催されたとき、T 氏が列車で新潟へ向かっていました。偶々同乗していた大会参加のボーイスカウトから、足の不自由な T 氏が席を譲られたことに恐縮したそうです。

新潟までの車中、制服姿のスカウトを見ていると席の空いているときは座っていても乗客が入って来たときは席を立つということを繰り返していました。お礼にと持っていたお菓子をあげるとスカウト引率のリーダーの許可を得て「おじさん有り難う。」とリュックに収めるので「何故食べないの？」と聞けば「この先の地でキャンプをしていて、そこに帰ってから皆でいただきます。」と返事されたそうです。

それがボーイスカウトだと後で解ったのでした。アンノウンスカウトに似た出来事が、我が町にも是非欲しいと願ったのが団のはじまりでした。

アンノウンスカウトは周囲への感謝と配慮そして約束があらわされています。そして浄土真宗の生活信条には私たち日々の心得が記されています。

班集会・隊集会にかかわらずスカウトは唱和されていることと思います。

阿弥陀様に願われている私たちが、恵まれた尊い命に気付き、その寄りどころを教えに聞くことは力強く明るく生きる指針です。そして常わが行いを振り返り感謝し、互いに敬い助け合い社会の為に尽くすことはアンノウンスカウトそのものの姿です。

それは非日常の生活ではなく日常生活の場でのスカウト活動です。制服を着たときだけではない日常の中でのスカウティングでありたいですね。